



ほりぐちじゅんや
堀口 順也

こうめいとうぎいんだん
公明党議員団

マイ・タイムラインで自分の避難行動計画を

問 マイ・タイムラインは、平成27年9月に起きた関東・東北豪雨の鬼怒川の氾濫による被害を教訓に、犠牲者ゼロの目標に向けて始めた取り組みである。

台風の接近によって河川の水位が上昇する時など、洪水時に自分自身がとる防災行動を時系列的に整理し、取りまとめる行動計画表「マイ・タイムライン」の作成の推進を。

マイ・タイムラインの作成推進を検討

答 各地域で開催されている防災学習会や訓練などの機会を捉えて、自助という観点から、災害に備え、避難のタイミングや避難場所、避難経路などについて普段から検討してもらうよう周知啓発に取り組んでいる。

今後の防災学習会などにおいて、マイ・タイムラインの作成推進について検討し、さらなる防災力の向上を図っていく。



●その他の質疑・質問●

- SDGsを共通言語として、課題解決に取り組む官民の連携創出を支援することを目的として設立された「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」への入会の考えは
- 水害や津波の犠牲者を減らせる可能性があるライフジャケットの購入費の補助支援を
- 自転車活用推進計画について



▲日本ユニセフ協会と外務省が制作したSDGsの副教材



はせがわゆきこ
長谷川 幸子

にほんきょうさんとうつしぎだん
日本共産党津市議団

平和への願いを次世代につなぐ活動の継承を

問 被爆者の長年の願いが実り2017年7月7日に国連で採択された「核兵器禁止条約」は核兵器のない明るい未来の持てる世界へと道を開くものである。唯一の被爆国である日本政府として一日も早く署名し批准することを求めるが、津市においても核兵器廃絶の証言者として被爆者や家族2世3世の体験を聞くなど平和への願いを次世代につなぐ活動を広げるべきではないか。

被爆体験の伝承に関する取り組みを継続

答 平和を考える市民のつどいの取り組みの一環として、被爆者の実体験やその思いなどを受け継いだ被爆体験伝承者の方を招き、集まった市民の皆さまに被爆の恐ろしさや戦争の悲惨さについて聞いていただく取り組みを行っている。

被爆から70年余りが経過し、被爆体験者から直接お話を聞くことは非常に難しくなっている。

しかし、恐ろしい被爆体験を風化させることなく、次世代に継承していく取り組みは、今後ますます重要になってくるので、引き続き、被爆体験の伝承に関する取り組みを進めていく。

●その他の質疑・質問●

- 「この街に住み続けたい」との想いにこたえる高齢者の外出支援策の充実を
- コミュニティバス運賃の無料化とシルバーエミカ年間2千ポイント支援について
- 公共交通の利用ができない方にはタクシー利用券の導入を
- 常設の平和資料館の設置を
- いじめから子どもを救う手だてを など



▲世界の恒久平和と人類の安全を願う津市非核平和都市宣言